

主要産地における平成28年産水稻の生育状況等について 第10報 (7月28日現在)

作成：公益社団法人米穀安定供給確保支援機構情報部 (平成28年7月29日)

道府県	区分	生育状況等 (自治体公表資料の抜粋)	同左及び周辺事情に対する自治体公表資料等 (抜粋)
		平年に対する遅速等	
北海道	(全道)	生育は平年並 (遅2)。草丈は59.1cmで平年より短く、葉数は10.2枚で平年並、茎数は644本/m <sup>2</sup> で平年並。(北海道農政部 7月15日現在)	・8月のいもち病 (葉いもち・穂いもち) の発生量は平年と予報。ウンカ類とアカハダゾウムシドリカスミカメの発生量は平年並。フタオビコヤガの発生量はやや少ないと予報。 (北海道病害虫防除所、道総研中央農業試験場平野実験グループ 7月28日公表)
(生育)	(空知) 生育は平年並に進んでいる。草丈は61.2cmでやや短い、葉数は10.3枚で平年並、茎数は649本で平年並。(空知総合振興局 7月15日現在) (石狩) 生育は平年並に進んでいる。草丈は54.4cmで短く、葉数は9.8枚で平年並、茎数は667本で平年並。(石狩総合振興局 7月15日現在) (後志) 生育は平年より遅いが回復しつつある。草丈は56.2cmで平年よりやや短く、葉数は9.9枚で平年並、茎数は605本で平年よりやや少ない。(後志総合振興局 7月15日現在) (胆振) 生育は平年並 (遅2日)、草丈は50.8cmで短い、葉数は9.9枚で平年並、茎数は568.2本で平年並。(胆振総合振興局 7月15日現在) (日高) 生育は平年並 (遅2日)、草丈は55.6cmで平年より短く、葉数は9.9枚で平年並、茎数は555.1本で平年より少ない。(日高総合振興局 7月15日現在) (渡島) 生育は概ね平年並。草丈は65.2cmで平年並、葉数は9.6枚で平年並、茎数は709本でやや少ない。(渡島総合振興局 7月15日現在) (樺山) 生育は回復しつつある (遅4日)。草丈は52.1cmで短い、葉数は9.8枚でやや少ない、茎数は627.7本でやや少ない。(樺山振興局 7月15日現在) (旭川) 生育は平年並かやや遅れて推移している (遅4日)。草丈は60.0cmで短い、葉数は10.4枚で平年並、茎数は655本で平年並。(旭川総合振興局 7月15日現在) (留萌) 生育は順調に進んでいる。草丈は59.5cmでやや短い、葉数は10.6枚で平年並、茎数は602本でやや多い。(留萌振興局 7月15日現在) (オホーツク) 生育は平年並 (遅2日)。草丈は60.7cmで平年より短い、葉数は8.3枚りやや少なく、茎数は569.5本で少ない。(オホーツク総合振興局 7月15日現在)		
青森	(生育)	・7月20日現在の「つがるロマン」の生育状況は、草丈が59.3cmで平年より11.1cm短く、株当たり茎数は28.3本で平年より0.9本少なく、葉数は11.1葉で平年より0.7葉少なかった。「青天の霹靂」の生育状況は、草丈が68.6cmで前年より2.3cm短く、株当たり茎数は25.4本で前年より2.9本少なく、葉数は10.2葉で前年より0.6葉少なかった。幼穂形成期の到達日は、「つがるロマン」が7月13日で平年より1日遅く、「青天の霹靂」は7月10日、前年より1日遅かった。 ・7月20日現在の十和田の「まっしぐら」の生育状況は、草丈が68.4cmで平年より6.0cm短く、株当たり茎数は21.5本で平年より1.6本少なく、葉数は11.5葉で平年並みであった。幼穂形成期の到達日は7月4日で、平年より6日早かった。(青森県 7月20日付) (黒石) 7月20日現在の「つがるロマン」の生育状況は、草丈が59.3cmで平年より11.1cm短く、株当たり茎数は28.3本で平年より0.9本少なく、葉数は11.1葉で平年より0.7葉少なかった。「青天の霹靂」の生育状況は、草丈が68.6cmで前年より2.3cm短く、株当たり茎数は25.4本で前年より2.9本少なく、葉数は10.2葉で前年より0.6葉少なかった。 (十和田) 7月20日現在の「まっしぐら」の生育状況は、草丈は68.4cmで平年より6.0cm短く、株当たり茎数は21.5本で平年より1.6本少なく、葉数は11.5葉で平年並。 (青森県農業技術センター 農林総合研究所 7月21日付)	・8月の穂いもちはやや少ない。紋枯病は平年並と予報。斑点米カメムシ類はやや多い。コバネイトゴは平年並、ウンカ類、フタオビコヤガ、コブメイガはやや少ないと予報。 (青森県病害虫防除所 8月28日公表)
岩手	(生育)	・7月25日現在、農業研究センター (北上) では、草丈及び葉数は「ひとめぼれ」、「あきたこまち」とも、平年を下回っている。茎数は「ひとめぼれ」、「あきたこまち」とも平年を上回っている。葉色 (SPAD値) は、「ひとめぼれ」は平年を上回っているが、「あきたこまち」は平年を下回っている。 県北農業研究所 (軽米) の「ひわがっご」の草丈、葉数、葉齢、葉色 (SPAD値) とも平年を下回っている。減数分裂期は、7月23日 (平年より1日遅) に達した。 (岩手県農業研究センター 7月27日付) ・7月3日時点の出穂予想 いわてこ (北上川上流) 7月31日～8月6日、(北部) 8月3～10日 どんひしやり (北上川下流) 7月30日～8月7日、(東部) 8月7～20日 ひとめぼれ (北上川上流) 8月5日～16日、(北上川下流) 8月3～11日、(東部) 8月6日～17日 (岩手県 7月12日付)	・8月のいもち病 (穂いもち)、紋枯病の発生量はやや多い。こま葉枯病の発生量は平年並と予報。斑点米カメムシ類の発生量はやや多い。フタオビコヤガの発生量はやや少ない。ウンカ類、ツガロヨコバイの発生量は少ないと予報。 (岩手県病害虫防除所 7月27日公表)
宮城	(生育)	・7月20日現在、県内生育調査ほの幼穂長は54.8mm (平年並+11.7mm) となっており、ほとんどのほ場で減数分裂期に達し、平年に対して2日程度早まっている。今後の気温が平年並で推移した場合、出穂期 (県全体の平均) は8月3日頃 (平年は8月5日) になる見込みである。 生育は、草丈が70.9cm (平年比99%)、1m <sup>2</sup> あたりの茎数が500本 (平年比96%)、葉数が11.9枚 (平年並) であった。 (宮城県 7月21日付) (美里) 7月20日現在、県内生育調査ほのほとんどで減数分裂期に達し、平年に対して2日程度早まっている。県全体の出穂期は8月3日頃 (平年比99%) と予想される。北部平坦部の中生品種の出穂期は8月1日頃 (平年比99%) の見込み。 管内生育調査ほの草丈、葉数は平年並、葉数は平年を下回り、葉色は平年を上回った。幼穂長は平年を上回り、平年より生育が進んでいる。管内の調査ほ場の生育量は、県内北部平坦 (17地点) の平均値並。 (県東農業改良普及センター 7月22日付) (栗原) 7月20日現在、生育調査ほ (ひとめぼれ) の草丈は平年並 (平年比97%)、葉数は平年並 (平年比102%)、葉色はやや濃く (平年比104%)、葉数は平年並 (平年並+0.2枚) で、幼穂長等から生育は平年並に1日程度進んでいる。 5月6日移植の調査ほでは、減数分裂期を過ぎ、5月18日移植の調査ほではまもなく減数分裂期を迎え、出穂期は8月2～3日頃と見込まれる。「つや姫」は幼穂形成期になり、出穂期は8月10日頃と見込み。 (県東農業改良普及センター 7月21日付) (大崎) 7月20日現在、草丈は「ほほ平年並～やや短い」。葉数は、北部平坦ササニシキ及び西部丘陵まなむすめ、山間高冷やまのしずくは、平年を大きく上回っている。北部平坦及び西部丘陵のひとめぼれは、平年を下回っている。葉数は「ほほ平年並またはやや少ない傾向」が見られる。北部平坦のひとめぼれ及びササニシキは7月18日、西部丘陵のひとめぼれは7月19日、山間高冷のやまのしずくは7月20日に減数分裂期に入り、8月上旬の出穂が見込まれる。今後の気温が平年並で推移した場合、出穂期 (県全体の平均) は8月3日頃 (平年は8月5日) になる見込み。(大崎農業改良普及センター 7月21日付) (大河原) 7月20日現在、生育ステージは平年より早めに進み、平坦部では減数分裂期に入っている。平坦な地域で田植えの早かった「ひとめぼれ」や「まなむすめ」は7月末頃、山間部の「やましずく」は8月上旬の出穂が見込まれる。穂晩生の「つや姫」は幼穂形成入っている。 (大河原農業改良普及センター 7月20日付) (仙台) 7月11日現在、管内のほとんどの移穂水稲が、7月18日～25日の間に減数分裂期を迎える見込み。地帯区分別のひとめぼれとササニシキの出穂予想は、北部平坦で7月30日～8月6日、南部平坦で7月28日～8月5日、仙台海岸で7月20日～8月7日、西部丘陵で8月3日～12日、山間高冷で8月9日～19日。 (仙台農業改良普及センター 7月14日付) (登米) 平年に比べ草丈はやや長い (平年比96～109%)、葉数は平年並 (平年比89～108%)、葉数は平年並 (平年並-0.5葉～+0.5葉)、葉色はやや濃い (平年比+0.8～+1.7)、幼穂長：0.4mm～2.0mm (主茎10本平均) で、移穂の生育調査ほ場の全てで幼穂の形成が確認された。 (登米農業改良普及センター 7月14日付) (本吉) 7月11日現在、気仙沼市の生育調査ほ (ひとめぼれ) では、平年と比較して、草丈は平年並、葉数は少なく、葉数は多く、葉色はやや濃くなっている。6月末から中干し期間に入った。葉数が平年より少ないのは、昨年から田植え機が替わったことに伴い穀穂密度が変わった (少なくなった) ため。南三陸町の生育調査ほ (ササニシキ) では、草丈・葉数・葉色ともにほほ平年並。気仙沼の生育調査ほはまだ必要葉数に達していないが、管内の巡回調査から、管内の移穂水稲はほぼ必要葉数(約45本/m <sup>2</sup> )を確保したと思われる。生育は平年より2～3日進んでいると思われる。(本吉農業改良普及センター 7月1日付) (亶理) 6月10日現在、葉数は前年並み、草丈は前年より高くなる傾向がみられる。乾田直播栽培では、苗立ち率は良好で初期にしては茎数も多く、葉数も進んでおり、移穂栽培との生育の差は10日程度となっている。湛水直播栽培でも播種後の苗立ち率は高くなっている。(亶理農業改良普及センター 6月13日付)	・8月上旬までの葉・穂いもち、紋枯病、稲こじ病の発生量は平年並と予報。斑点米カメムシ類 (アサジカスミカメ) の発生量はやや多い、イネオウムシの発生量は少ないと予報。 (宮城県病害虫防除所 7月21日公表)
秋田	(生育)	(鹿角) 7月5日の定点調査では、草丈が49.8cm (平年比101%) で平年並、葉数は655本/m <sup>2</sup> (平年比106%) で多く、葉数が9.7葉 (平年-0.3葉) とやや少なかった。葉色はSPAD値で42.9 (平年比99%) で平年並になった。(7月8日付) (山本) 7月16日現在の水稲定点調査ほ場 (管内9地点) における生育状況は、草丈59.2cm (平年比29%)、茎数513本/m <sup>2</sup> (同比96%)、葉数10.9 (同並-0.1葉) となっている。(7月21日付) (秋田) 7月15日現在の定点調査ほ (あきたこまち：10地点平均) の草丈は64.3cm (平年比98%) で平年並、m <sup>2</sup> あたりの葉数は489本 (同96%) で平年より少なく、葉色 (葉緑素計値) は平年よりやや淡くなっている。また、葉数は11.3葉 (平年並+0.2葉) で、平年並となっている。(7月21日付) (秋田県) 7月15日現在のあきたこまちは、草丈60.7cm (平年比96%)、葉数522本/m <sup>2</sup> (平年比89%)、葉数11.2葉 (平年並+0.0)、葉数から見た生育は平年並となっており、葉色は平年よりやや濃い状況。(7月22日付) (仙北) 7月15日現在の「あきたこまち」の生育は、草丈60.5cm (平年比96%)、葉数516本/m <sup>2</sup> (平年比99%)、葉数10.7葉 (平年比11.1葉)、葉色40.1 (平年比100%) となっている。定点ほ場のほとんどで幼穂形成期を迎えている。(7月15日付) (平鹿) 7月15日に行った水稲生育定点調査 (あきたこまち11か所) の結果では、草丈が61.8cm (平年比97%)、葉数が498本/m <sup>2</sup> (平年比95%)、葉数が11.2葉 (平年比+0.3葉)、葉色が42.7 (平年比101%) となっている。(7月15日付) (雄勝) 7月5日の生育状況 (あきたこまち管内8か所平均) は、草丈50.1cm (平年比102%)、葉数464本/m <sup>2</sup> (平年比87%)、葉数9.7枚 (平年-0.1枚)、葉色44.8 (平年比99%) となっている。生育の進み具合は平年並だが、葉数が少ない傾向。(7月8日付) (由利) 7月15日の水稲定点調査結果 (3品種・移穂8か所平均) によると、草丈は63.5cmで長く (平年比102%)、m <sup>2</sup> あたり葉数は513本でやや少なく (平年比92%)、葉数は11.1葉と平年並 (平年並+0.1葉)。ほとんどのほ場で幼穂形成期に入っており、稲の生育状況を見ながら、必要に応じて追肥作業が行われている。出穂期は平年より5日程度早まると思われる。(7月21日付) (秋田県農林政策課)	・7月末から向こう1か月で、斑点米カメムシの発生が「多い」と予想 (農林水産省 7月26日公表) ・7月の葉いもち、褐色直結病、稲こじ病の発生量は平年並、紋枯病の発生量はやや少ないと予報。ゼンロンカメの発生時期は早く、発生量はやや多いと予想。斑点米カメムシ類のアサジカスミカメの発生時期は早く、発生量は多い、アカヒゲホソドリカスミカメの発生量はやや多いと予報。 フタオビコヤガ、コバネイトゴの発生量はやや少ないと予報。 (秋田県病害虫防除所 7月1日公表)

	生育状況等	同左及び周辺事情に対する自治体等公表資料等（抜粋）
山形	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>7月20日現在の平坦部「はえぬき」は、草丈、葉数、葉色は平年並みで、葉数は平年比92とやや少なくなっている。幼穂の生育状況からみた出穂期は、「はえぬき」では8月3日頃と見込まれる。（オールやまがた米づくり日本一運動本部 7月20日付）</li> <li>(最上) 7月20日現在、生育診断圃「はえぬき」の生育は、草丈が短く、葉数が多く、葉数がやや遅れ、葉色がやや濃く推移している。出穂期は平年並の見込み。依然として生育の圃間差が大きい。（最上総合支庁農業技術普及課 7月22日付）</li> <li>(鶴岡田川) 7月19日現在、水田農業試験場（藤島）の幼穂調査では、出穂期は中生晩の「ひとめぼれ」は8月4日、「はえぬき」は8月4日で概ね平年並と見込まれている。晩生の「つや姫」、「コンヒカリ」は8月13日で、平年よりやや遅い予想（庄内総合支庁農業技術普及課 7月25日付）</li> <li>(北村山) 6月30日現在、生育は平年並み。但し、圃場間の生育量にばらつきが大きい。草丈は平年並み～やや短く、葉数は平年並み～やや少なく、葉数は平年並み～1日早く、葉色は色ムラがみられ、やや淡いものが多い。（北村山農業技術普及課 7月5日付）</li> <li>6月30日現在、つや姫の生育状況は、指標に対し草丈は短く、葉数は並～やや少、葉色は格差が大きく、生育速度は並。例年より、ばらつきが大きい。（北村山農業技術普及課 7月5日付）</li> <li>(東南村山) 7月11日現在、「つや姫」調査ほ6か所の草丈、葉数、葉色はほぼ指標並で、葉数はやや少ない状況。管内のつや姫の出穂は8月10日前後と予想（村山総合支庁農業技術普及課 7月12日付）</li> <li>(東南置賜) 6月30日現在の生育は、草丈は平年並み～やや長く、葉数は平年並み～やや少なく、葉色は平年並みの状況。葉数の進みは平年並み～やや早い状況で、今後も気温が高く経過すると予想されているため、さらに生育が進み、出穂が早まる見込み。地域、品種、圃場間の生育のばらつきが大きい状況。（置賜地域本部実務班 7月5日付）</li> <li>6月30日現在、つや姫の生育状況は、指標と比べ、草丈は並みからやや長く、葉数は並みからやや少なく、葉数は並みからやや多く、葉色は並みからやや濃い状況。今後も気温が高く経過すると予想されているため、さらに生育が進み、出穂が早まる見込み。予想出穂期は8月10日（平年 8月12日）。（オールやまがた米づくり日本一運動置賜地域本部 7月5日付）</li> <li>(西村山) 6月30日現在の生育は、葉数の進みはほぼ平年並み。草丈はほぼ平年並み、葉数は圃場により少ない。葉色はやや濃い。（村山総合支庁西村山農業技術普及課 7月4日付）</li> <li>(酒田飽海) 7月11日現在、生育診断ほの生育は、草丈は平年並、葉数はやや少ないが目標葉数は概ね確保されている。葉数はやや少なく、葉色は平年並～やや濃い状況（酒田農業技術普及課 7月13日付）</li> <li>7月11日現在の「つや姫」の生育は、草丈は平年並～長、葉数は平年並～少ない、葉数は平年並～やや遅い、葉色は平年並～濃い。出穂は8月11～13日の予想（酒田農業技術普及課 7月12日付）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>8月の穂いもちの発生量は平年並、紋枯病の発生量はやや少ない、斑点米カメムシ類の発生量は平年並と予想。（山形県病害虫防除所 7月27日公表）</li> </ul>
福島	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>7月5日現在の農業総合センターの生育調査では、調査場所での生育状況が異なっている。本部（郡山）では、草丈が平年並、葉数が平年並からやや少なく、主稈葉数が平年より多くなっている。会津地域研究所（会津坂下）では、草丈と主稈葉数が平年並、葉数が平年より少なくなっている。浜地域研究所（相馬）では、草丈が平年より長く、葉数が平年並から多く、主稈葉数が平年よりやや少なくなっている。（福島県農林水産部 7月8日付）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>いもち病（穂いもち）、稲こうじ病の発生量はやや多い、紋枯病の発生量は平年並と予想。斑点米カメムシ類、イネネットムシの発生量はやや多いと予想。（福島県病害虫防除所 7月22日公表）</li> <li>葉いもちの発生や穂いもちへの感染が懸念される（福島県病害虫防除所 7月22日公表）</li> <li>7月中旬から向こう1カ月で、斑点米カメムシの発生が多い予想（農林水産部 7月12日公表）</li> </ul>
茨城	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>(水戸市) 7月20日現在、5月27日移植の「あきたこまち」の出穂期は7月16日で平年並。幼穂長から予測される「コンヒカリ」の出穂期は平年並。平年と比較して、商品種ともに草丈は平年並、葉数はやや少なく、葉色は平年並。5月10日移植の「コンヒカリ」の出穂期は、幼穂長からみて平年並と予測される。草丈、葉数、葉色ともに平年並。（茨城県農業総合センター農業研究所 7月22日付）</li> <li>(龍ヶ崎市) 7月19日現在、4月27日移植の「あきたこまち」の出穂期は、平年より3日早い7月11日。幼穂の生育程度から予測される「コンヒカリ」の出穂期は、平年より2日早い7月22日。平年に比べ、商品種ともに草丈はやや長く、葉数は並。葉色は「あきたこまち」で淡く、「コンヒカリ」で並。（茨城県農業総合センター農業研究所 7月22日付）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月のいもち病（葉いもち）の発生量は平年並～やや多いと予想。斑点米カメムシ類の発生時期はやや早く、発生量は県下全域でやや多いと予想。（茨城県病害虫防除所 7月4日公表）</li> </ul>
栃木	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>7月20日の調査結果、早稲栽培の出穂期は、平年より5～6日早まる見込み。普通稲栽培の生育は、概ね平年並。早稲栽培（コンヒカリ）の全体の生育（16か所平均）は、草丈はやや長い（平年比103%）、葉数は少なく（87%）、葉色はやや濃い（-0.2）ため、生育診断値（葉色×葉数）は小さい（82%）、葉数は平年並、幼穂長は12.4cmで平年より5.5cm長い。幼穂長から予測すると、出穂期は、7月27日で平年（8月1日）より5日早い。普通稲栽培（あさひの夢）の全体の生育は、草丈は59.5cmで平年比102%とやや長く、葉数は468本/m<sup>2</sup>で平年並、葉数は10.5で平年より0.3多く、葉色は4.9で平年より0.1濃い。生育診断値（葉色×葉数）は2.259で平年比102%とやや大きい。（栃木県農政部 7月25日付）</li> <li>葉数が少なく、葉色も淡い生育となっている。鹿沼・日光ともに幼穂分化が確認された。5月上旬頃のコンヒカリでは、7月25日頃に出穂をむかえたと予測。本年の出穂期は平年よりも3～4日早くなる予想（上都賀農業振興事務所 7月13日付）</li> <li>河内管内の水稻の生育は、草丈が高く、葉令も進んでおり、出穂は平年より5日（昨年より2日）程度早まる見込み（河内農業振興事務所 7月14日付）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月末から向こう1カ月で、綿葉枯病の発生が「多い」と予想（農林水産部 7月26日公表）</li> <li>7月下旬～8月下旬のいもち病の発生量はやや多いと予想。斑点米カメムシ類の発生量はやや多いと予想。（栃木県農業環境指導センター 7月22日公表）</li> </ul>
埼玉	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>所内生育相（7月1日現在） 早期栽培（5月2日種 ンヒカリ）は、葉位の進展が早く、移植40日後調査では葉数が平年を上回ったが、中干しが良好に実施できたため、その後の弱小葉の発生を抑制された。移植60日後の調査では草丈、葉数とも概ね平年並で生育は順調。また、6月末時点で幼穂長が1～2mm程度であり、出穂が5日程度早まる（出穂期の平年値：7月27日）と予想される。 早稲栽培（5月20日種 影のかがやき）は、草丈、葉数ともに平年並みに推移している。葉位の進展も概ね平年並であり、生育は順調。 普通栽培（6月24日種 キヌヒカリ）は、育苗期間が高温であったため、徒長した充実度が低い苗であったが、移植後の天候が良好であったため、活着は概ね良好。</li> <li>県内全般（7月1日現在） 普通栽培の移植は、平年より早く作業が進み概ね終了した。早期栽培では移植時期が早いものほど好天に恵まれ、生育は進んでおり幼穂の分化はやや早まっている。中干しは概ね順調に行われた。 早稲栽培の生育は、センター内同様、草丈、葉数は概ね平年並で、高温により幼穂の分化はやや早まっている。 普通栽培の生育は、植え込みや高温による除草剤の薬害も少なかったことから、活着が良好で初期生育も概ね順調である。</li> <li>早期、早稲栽培は、葉色が早期に低下しやすく、出穂期は平年より数日早まると予想される。 普通栽培は、葉色が早期に低下しやすく、幼穂形成期もやや早まると予想される。（埼玉県農業技術研究センター 7月1日現在）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月末から向こう1カ月で、綿葉枯病の発生が「多い」と予想（農林水産部 7月26日公表）</li> <li>7月の綿葉枯病の発生量は多く、葉いもち、綿葉枯病の発生量はやや多く、紋枯病の発生量は平年並の予想。ヒメトビウンカ、ツマグロヨコバイ、イネネットムシ（第2世代幼虫）、セジロウンカ、斑点米カメムシ類の発生量はやや多く、イネアオムシ（第3世代幼虫）の発生量はやや少ないと予想（埼玉県病害虫防除所 6月29日公表）</li> </ul>
千葉	<p>(生育)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4月20日頃に播付した「ふさおとめ」、「ふさこがね」、「コンヒカリ」は、平年より2日から3日程度早く出穂を迎えた。また、5月1日頃に播付した「コンヒカリ」は、平年並みの7月24日頃から出穂期を迎えると予測（千葉県農林水産部 7月15日付）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月中旬から向こう1カ月で、綿葉枯病の発生が多い予想（農林水産部 7月12日公表）</li> <li>向こう1か月の病害虫の発生量は、いもち病（穂いもち）、紋枯病、こま葉枯病は平年並の予想。大型カメムシ類はやや多く、カスカカメムシ類は多く、ヒメトビウンカはやや多く、イネクオカメムシ、セジロウンカ、イネアオムシ、イネネットムシの発生量は平年並の予想。（千葉県農林総合研究センター 7月7日公表）</li> </ul>

	生育状況等	同左及び周辺事情に対する自治体等公表資料等（抜粋）
新潟	<p>・7月25日現在、コシヒカリの出穂期は、県平均で8月4日で平年より3日程度早まる見込み。コシヒカリの葉色は、指標値に比べて「並み」の状況。こしいぶきも、指標値に比べて「並み」の状況。 （新潟県農林水産部 7月26日付）</p> <p>・7月20日現在、出穂期は、平年に比べコシヒカリが3日程度早く、こしいぶきが4日程度早まる見込み。コシヒカリの生育は、指標値に比べて、草丈は「やや長い」、葉数は「並み」、葉色は「やや濃い」状況。こしいぶきは、草丈は「長い」、葉数は「並み」、葉色は「やや濃い」状況。 （新潟県農林水産部 7月21日付）</p> <p>（岩 船）葉色は指標値に比べて、並～やや濃く、草丈はやや長い。調査ほ場の予想出穂期は、8月7日～13日。 （村上農業普及指導センター 7月25日現在）</p> <p>（新発田）7月26日現在、草丈は85cm（指標比106%）でやや長く、葉数は365本/m<sup>2</sup>（同比95%）でやや少く、葉数は12.4葉（指標差+0.2葉）で並、葉色は葉緑素計32.3（同差-1.2）でやや濃い。指標値に比べ草丈の伸長は緩化したのが、急激な低温低下傾向にある。コシヒカリの出穂予想は、平年に比べ1～2日程度早まる見込み。 （新潟県農業普及指導センター 7月26日付）</p> <p>（新 津）7月20日現在の普及センター調査ほのコシヒカリは、指標値に比べ草丈は「やや長い」、葉色は「濃い」、出穂期は、8月4日と予想。（新潟県農業普及指導センター 7月21日付）</p> <p>（新 潟）7月26日現在、コシヒカリの葉色はやや濃い。地域により差あり。出穂期は8月3日頃の予想から、1～2日遅れ平年並みの見込み。（新潟県農業普及指導センター 7月26日付）</p> <p>（南魚沼）7月25日現在のコシヒカリの生育は、指標値に比べ草丈は「やや長」、葉数は「やや多」、葉色は「並」となっている。ほ場ごとの生育のバラツキが大きく、倒伏や寒害脱落の懸念があるほ場が見受けられる。 （南魚沼農業普及指導センター 7月25日付）</p> <p>（上 越）7月26日現在の「コシヒカリ」の生育は、葉色（SPAD値）は31.9（指標値差-0.6）で「並」。ただし、一部で葉色が濃いほ場や下葉の枯れ上がりが見立つほ場が見られる。コシヒカリの出穂は、平年より2～3日早いと見込まれる（5月10～15日の出穂では8月3日頃の出穂期の見込み）。「こしいぶき」の出穂は、平年より2～4日程度早く出穂している（5月10～15日の出穂では7月25～26日頃）。草丈はやや長く、葉数はやや多く、葉色は濃くなっている。 （上越農業普及指導センター 7月25日現在）</p> <p>（巻）7月11日現在のコシヒカリの生育は、指標値と比べ草丈は「やや長」、葉数は「並～やや多」、葉色は「並」。出穂期は、草丈品種は平年に比べ4日程度早く、コシヒカリは平年に比べ3日程度早いと予想。 （巻農業普及指導センター 7月11日付）</p> <p>（三 条）7月25日現在のコシヒカリは、葉色平均はSPAD値33.4で指標値に比べ0.6低い。調査地点の約1/3のほ場で葉色SPAD値32（葉色板風葉4.3）以下のほ場がみられ、後期葉不足が懸念される。 （三条農業普及指導センター 7月25日付）</p> <p>（魚 沼）出穂期は平年より早まり、5月15日頃田圃のコシヒカリで、8月2～3日頃の見込み。 （JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター 7月27日付）</p> <p>（十日町）7月20日現在、指標値に比べコシヒカリの草丈はやや長く、葉数は多く、葉色は並に維持されている。管内の出穂状況は、新潟次第で出穂が確認された。（十日町農業普及指導センター 7月20日付）</p> <p>（糸川川）7月20日現在のコシヒカリ（田植え日:5月2～23日）は、指標値に比べ草丈は並、葉数はやや多く、葉数は並、葉色はやや濃い。出穂期は平年に比べて4日程度早くなる見込みだが、ほ場間差が大きい。 こしいぶき（田植え日:5月1日）、指標値に比べ草丈は長く、葉数は並、葉数は多く、葉色は濃い。 （糸川川地域農林振興部 7月21日付）</p> <p>（柏 崎）草丈は長く、葉数は並、葉色は濃くほ場間差が大きくなっている。出穂期見込みが早くなり、8月3～4日頃。 （柏崎農業普及指導センター 7月21日付）</p> <p>（佐 渡）7月20日現在のコシヒカリの生育状況（拠点ほ場8ヶ所の平均）は、平均値は指標値。地域により生育の差が大きく、出穂期に差がある見込み。（佐渡農業普及指導センター 7月21日付）</p> <p>（長 岡）7月11日現在、コシヒカリの生育は、指標値（めやす）に比べ、草丈「やや長」、葉数「やや多」、葉色「並」、葉数「早い」。本年の幼穂形成期及び出穂期は、前年並、平年より3日程度早いと予想（長岡農業普及指導センター 7月12日付）</p>	<p>・7月後半の葉・穂いもち、紋枯病、稲こうじ病の発生量は平年並の予報。ニカメイチュウ、イネアオムシの発生量はやや少く、セジロウガ、ツマグロヨコバイの発生量はやや多。斑点米カメムシ類の発生量はやや多～多い予報。 （新潟県病害虫防除所 7月15日公表）</p>
富山	<p>・生育観測ほデータ（7月19日現在） （コシヒカリ）葉齢がやや進んでおり、草丈、葉数、葉色は、概ね平年並みに推移している。幼穂形成期は、平年より4日早い7月9日となった。出穂期は、平年より4日早い、7月31日頃と見込まれる。 （てんこもり）葉齢は平年並りに進んでおり、草丈、葉数、葉色は概ね平年並みに推移している。幼穂形成期は、平年より7日早い7月9日となった。出穂期は、平年より7日早い、8月1日頃と見込まれる。 （富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月19日付）</p> <p>（生育） ○湛水直中播栽培（カルパー） 平年に比べ葉齢は進んでおり、草丈は長く、葉数、葉色は平年並みとなっている。葉齢を揃えて比較すると、草丈は平年並み、葉数はやや多く推移している。幼穂形成期は、平年より4日早い7月14日であった。 出穂期は、平年より4日早い、8月4日頃と見込まれる。 ○湛水表面直播栽培（鉄） 近年に比べ葉齢は進んでおり、草丈は長く、葉数はやや多く、葉色は近年並みになっている。葉齢を揃えて比較すると、草丈は近年並み、葉数は多く、葉色はやや濃く推移している。幼穂形成期は、近年より2日早い7月1日であった。出穂期は、近年より2日早い、8月7日頃と見込まれる。 （富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月19日付）</p>	<p>・7月末から向こう1か月で、紋枯病と斑点米カメムシ類の発生が「多い」と予想（農林水産省 7月26日公表）</p> <p>・7月の葉いもち、穂いもち、稲こうじ病の発生量はやや多く、紋枯病の発生量は多いと予報。 斑点米カメムシ類の発生量は、アカヒゲホソミドリカメムシは多く、アサシロカメムシ、トゲシロシロカメムシは平年並みの予報。 ニカメイガ（第2世代）の発生量はやや多く、ツマグロヨコバイ、ヒメトビウガの発生量は平年並、セジロウガの発生量はやや少なく、イネアオムシ、イナゴ類の発生量は少ないと予報。 （富山県農林水産総合技術センター 7月1日公表）</p>
石川	<p>（7月19日現在の生育状況） 出穂期 ゆめみづほの出穂が加賀地域、能登地域ともに見られ、近年に比べ加賀地域で4～7日程度、能登地域では8日程度早まった。能登みかりは近年に比べ0～7日程度早まる見込み。コシヒカリの出穂期は、加賀地域で平年に比べ4～5日程度、能登地域は平年に比べ4～6日程度早まる見込み。</p> <p>・草丈 コシヒカリで平年比107%（加賀地域107%、能登地域108%）とやや長い。ゆめみづほは、近年比111%（加賀地域110%、能登地域114%）と長い。</p> <p>・mあたり葉数 コシヒカリで平年比98%（加賀地域100%、能登地域96%）と並、ゆめみづほで近年比105%（加賀地域105%、能登地域103%）と平年並。</p> <p>・葉色 コシヒカリの葉色は、加賀地域、能登地域とも平年並 （石川県農林水産部農林総合研究センター 7月19日調査）</p>	<p>・7月末から向こう1か月で、斑点米カメムシ類とツマグロヨコバイの発生が「多い」と予想（農林水産省 7月26日公表）</p> <p>・7月中旬～8月上旬の葉いもち、紋枯病の発生量はやや多、斑点米カメムシ類の発生量は多いと予報。 （石川県農林総合技術センター 7月14日公表）</p>
福井	<p>・移植のコシヒカリは7/10前後に幼穂形成期を迎えている。草丈がやや長く、葉数はやや少ない。 移植のハナエチゼンは出穂期を迎えており平年より4日程度早い。 （水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月15日付）</p>	<p>・7月中旬から向こう1か月で、紋枯病、斑点米カメムシ類の発生が多い予報（農林水産省 7月12日公表）</p> <p>・7月の葉いもち病、早・中生穂いもちの発生量は平年並み、白葉枯病、紋枯病の発生量は平年よりやや多いと予報。 ニカメイガの発生量は平年よりやや多い（前年よりやや多い）、ツマグロヨコバイの発生量は平年並、セジロウガ、イネアオムシの発生量は平年並み（前年より多い）、イネアオムシの発生量は平年より少ない（前年より多い）と予報。 （福井県農業試験場 6月30日公表）</p>
長野	<p>・7月1日現在、豊科定点圃場では草丈は平年並からやや長く、葉数はやや少ない傾向だが、最高分け時期で、畝間の見えなような葉数過剰の圃場も見られる。 6月30日現在、DVIによる生育進捗では、平年より2～3日早いと推定している。豊科定点圃場のあきたこまち は、予想より1日早い7月2日に幼穂形成期に入った。平年より4日早く、昨年と同日。早生種の出穂は平年より早まること予想される。 （松本農業改良普及センター）</p>	<p>・斑点米の原因となるカメムシ類の発生が多く、斑点米が多発するおそれがある。 （長野県病害虫防除所 7月19日公表）</p>
滋賀	<p>・7月20日現在、各品種とも生育は平年より早い。草丈は、「コシヒカリ」では平年よりやや長く、「秋の詩」では平年並であった。葉数は、「コシヒカリ」では563本/m<sup>2</sup>（平年比106%）で平年より多く、「秋の詩」では556本/m<sup>2</sup>（同比99%）で平年並であった。葉数は、商品種ともに平年より0.6枚多かった。「コシヒカリ」の幼穂形成期は7月2日で平年より4日早く、出穂期は7月26日で平年より4日早かった。「秋の詩」の幼穂形成期は7月13日で平年より5日早かった。 ・「みずがけ」の成熟期予想は、4月下旬～5月上旬移植の場合では8月19日前後の見込み。5月中旬移植の場合では8月26日前後の見込み。生育は早まっている。 （滋賀県農業技術振興センター 7月26日付）</p>	<p>・7月下旬以降、イネいもち病（穂いもち）の発生量が県下全域でやや多いと予報。（滋賀県病害虫防除所 7月28日付）</p> <p>・穂いもち、白葉枯病の発生量は平年並、紋枯病はやや多い予報。 ニカメイガ（第2世代）、セジロウガ、ヒメトビウガの発生量は平年並、ツマグロヨコバイ、斑点米カメムシ類、コブメイガの発生量はやや多く、イネアオムシの発生量はやや少ないと予報。 （滋賀県病害虫防除所 7月20日公表）</p> <p>・7月下旬以降、斑点米カメムシ類の発生は多い予報（滋賀県病害虫防除所 7月14日公表）</p>
兵庫	<p>・6月28日現在、県北は葉齢は平年よりやや進みが早い、草丈は短く、葉数は平年より少ない。県全体では、葉齢は平年より進みが遅い、草丈は平年並み、葉数は平年より少ない。 6月27日現在の予想出穂期は、北播平垣部（移植日5/15）のコシヒカリで7月29日、県北山間部（移植日5/10）のコシヒカリで8月4日、南播平垣部（移植日5/20）コシヒカリで8月3日、県南平垣部（移植日6/1）のキヌヒカリで8月9日、淡路平垣部（移植日6/20）キヌヒカリで8月19日。 （兵庫県農政環境部 7月4日付）</p>	<p>・向こう1か月の葉いもち、紋枯病、綿葉枯病の発生量は平年並 ヒメトビウガの発生量はやや多く、ツマグロヨコバイ、セジロウガ、斑点米カメムシ、イネアオムシの発生量は平年並、トビウガ、フタバコバヤ、コブメイガの発生量はやや少ない予報（兵庫県病害虫防除所 7月21日公表）</p>

	生育状況等	同左及び周辺事情に対する自治体等公表資料等（抜粋）
岡山		<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月中旬から向こう1か月で、いもち病の発生が多い予想（農林水産省 7月12日公表）</li> <li>・7月の葉いもち、穂いもち、紋枯病の発生量はやや多く、結実枯病の発生量は平年並、ヒメトビウンカとツマグロコバエの発生量はやや多く、コメメイガ、セジロウカ、トビロウカの発生量は平年並、斑点米カメムシ類の発生量は少ない予想（岡山県 6月30日公表）</li> </ul>
広島		<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月下旬～8月上旬の穂いもちの発生は北部と中部でやや多く、葉いもちの発生は中部と南部で平年並の予想。セジロウカの発生は全域で平年並、斑点米カメムシ類は北部で少ない予想。（広島県西部農業技術指導所 7月11日公表）</li> <li>・7月中旬から向こう1か月で、いもち病、セジロウカの発生が多い予想（農林水産省 7月12日公表）</li> </ul>
山口	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・5月移植のコシヒカリ・ひとめぼれでは、穂ばらみ期になっている。出穂期は、6月上旬移植のきぬむすめでは8月19日頃、ヒノヒカリでは8月26日頃と予想。過去平均に比べ、本年は2～3日早いペース。（JA長門大津、長門農林事務所農業部 7月21日付）</li> <li>・7月頃から向こう1か月で、いもち病とセジロウカの発生が「多い」と予想（農林水産省 7月20日公表）</li> <li>・7月中～下旬、県内全域で葉いもちの発生が多い予想（山口県 7月15日公表）</li> <li>・7月のいもち病（葉いもち）の発生量は多く、紋枯病の発生量は平年並、ヒメトビウンカ（結実枯病）の発生量はやや少ないと予想。セジロウカの発生量は多く、トビロウカ、コブメイガ、斑点米カメムシ類の発生量は平年並と予想。（山口県病害虫防除所 7月1日公表）</li> </ul>
愛媛	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期栽培のコシヒカリ、あきたこまち等は穂肥の時期にあたる。早期栽培は、幼穂形成から出穂・開花期を迎える。水を必要とする時期であるため、やや深めに灌水しきめ細かな水管理を行うよう指導。普通期水稲は、多雨が予想されるため浅水管理を基本とし、根の健全化を図るよう指導。（愛媛県農林水産研究所 7月1日付）</li> <li>・7月中旬から向こう1か月で、いもち病の発生が多い予想（農林水産省 7月12日公表）</li> <li>・7月のいもち病（普通期栽培：葉いもち、早期栽培：葉いもち・穂いもち）の発生量はやや多く、早期栽培：葉いもち・穂いもちの発生量はやや多く、紋枯病、セジロウカの発生量は平年並、コブメイガはやや少～平年並、イネツトムシ第2世代は平年並～やや多く、斑点米カメムシ類（早期・早穂栽培）はやや多いと予想。（愛媛県病害虫防除所 6月30日公表）</li> </ul>
高知	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期水稲（6月17日現在）最高分けつ期は、「南国そだち」がやや早く、「コシヒカリ」は平年並み。同期における草丈は、「南国そだち」が平年並み、「コシヒカリ」はやや長くなっている。茎数は、「南国そだち」が少なく、4月5日植え「コシヒカリ」は平年並み、4月14日植え「コシヒカリ」が少なくなっている。出穂期は、4月5日植え「南国そだち」は6月16日。また、幼穂形成期後日数より推定した「コシヒカリ」の出穂期は、4月5日植えで6月26日、4月14日植えで7月2日となっている。いずれの品種、作型とも平年より4～7日早くなる模様。</li> <li>・普通期水稲（6月17日現在）6月3日植え「ヒノヒカリ」は、草丈は平年並みで、茎数が平年よりやや少ない、葉齢で見た生育進度は平年並み。（高知県農業技術センター 6月22日付）</li> <li>・7月頃から向こう1か月で、いもち病の発生が「多い」と予想（農林水産省 7月26日公表）</li> <li>・7月の早期稲は、いもち病（穂いもち）の発生量は平年並、ツマグロコバエの発生量は県中部で多く、県東部でやや多いと予想。セジロウカはやや少（県下全域）、ヒメトビウンカは県中部で多いと予想。普通期稲は、いもち病（葉いもち）は県東部と県中部で多く、ツマグロコバエは県東部と県中部で多く、県中部でやや多いと予想。セジロウカは県中部と県西部で多く、ヒメトビウンカは県東部と県中部で多いと予想。（高知県病害虫防除所 7月5日公表）</li> </ul>
福岡	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月24日現在における水稲の生育は、草丈は平年並で、茎数は著しくして平年より5%多く、ヒノヒカリは7%少なく、元気がつくしは前年並～やや少ない。主稈葉数は0.3～0.5葉少なく、生育は遅れている。（福岡県農林業総合試験場 7月27日付）</li> <li>・6月10日移植の夢つくしでは、草丈は平年より14%高く、茎数は平年並で、主稈葉数は0.8葉多い、6月20日移植のヒノヒカリでは、草丈は4～5%高く、茎数は5～18%少なく、主稈葉数は0.2～0.5葉多い。（福岡県農林業総合試験場 7月19日付）</li> <li>・7月中旬から向こう1か月で、セジロウカの発生が多い予想（農林水産省 7月12日公表）</li> <li>・7月のセジロウカの発生量はやや多く、トビロウカの発生量は平年並の予想。（福岡県病害虫防除所 7月1日）</li> </ul>
熊本		<ul style="list-style-type: none"> <li>・7月の早期水稲の穂いもちの発生量は平年と比べやや多いと予想。早稲水稲の葉いもち、普通期水稲の葉いもちの発生量は平年並、早稲水稲・普通期水稲のセジロウカの発生量は平年並の予想（熊本県病害虫防除所 6月30日公表）</li> </ul>
宮崎	(生育)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・早期米生育状況（6月下旬）幼穂形成期～出穂期を迎えている。平年より4日早い進度。6月以降平年に比べ、気温が高くなったため、生育が早く進んでいる。草丈は平年に比べて高く、茎数は平年よりやや少なくなっているが、概ね順調に生育している。（JA宮崎経済連ホームページ「平成28年度早期米生育状況」7月7日付）</li> <li>・早期水稲 6月15日現在の生育ステージ（県全体）穂ばらみ期～出穂期を迎えている。平年よりも早い進度。平均気温は平年より高く、降水量は平年より少なくなっている。草丈は平年よりやや高く、茎数や葉齢はほぼ平年並みとなっている。出穂最盛期は6月20日頃と予想されている。（中部地区）穂ばらみ期～出穂期。平年より4日早い進度。草丈が平年よりやや高く、茎数や葉齢はほぼ平年並み。一部のほ場では、6月10日に収穫が確認された。出穂始期は6月19日頃、出穂最盛期は6月22日頃と予想される。（南那珂地区）穂ばらみ期～出穂期。平年より8日程早い進度。6月に入っても高温に推移したことから生育が進んでいる。出穂始期は平年より5日早い6月12日となり、最盛期は平年より8日早い6月15日となっている。（児湯地区）幼穂形成期～穂ばらみ期。平年より2日早い進度。西都町や木城町を中心とする移植が早い地域では13～15日を中心に、ほ場で出穂期に入りつつある。（東臼杵南部地区）減数分裂期～穂ばらみ期。平年より5日程早い進度。草丈は平年より高く、茎数は平年並みとなっている。幼穂長は管内平均が14.3cmとなっており、生育の早いところでは走り穂が見られている。（JA宮崎経済連ホームページ「宮崎県産早期米産地情報」7月7日付）</li> <li>・7月中旬から向こう1か月で、いもち病、セジロウカの発生が多い予想（農林水産省 7月12日公表）</li> <li>・早期水稲病害虫の発生量の平年比は、葉いもちはやや多く、紋枯病は平年並、トビウンカと斑点米カメムシ類はやや多く、ヒメトビウンカは平年並の予想。</li> <li>・普通期水稲病害虫の発生量の平年比は、葉いもちはやや多く、ツマグロコバエ、セジロウカ、ヒメトビウンカは平年並、スクミリンゴガの発生量はやや少ないと予想。（宮崎県病害虫防除・肥料検査センター 6月24日公表）</li> </ul>
鹿児島		<ul style="list-style-type: none"> <li>・8月の普通期水稲のいもち病（葉いもち、穂いもち）、紋枯病の発生量は平年並、トビロウカ、コブメイガの発生量はやや少ないと予想。（鹿児島県病害虫防除所 7月27日公表）</li> <li>・7月中旬から向こう1か月で、いもち病の発生が多い予想（農林水産省 7月12日公表）</li> </ul>

注1：地方自治体及び出先機関並びにJA等がホームページで公表している資料を米穀機構情報部で取り纏め。  
注2：生産数量目標、収穫量、作況については、農林水産省の公表資料から抜粋。

道府県	備考 気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）	生産数量目標				収穫量（主食用） 27年産	作況指数 27年産
		参考		参考			
		平成28年産	前年産との比較	増減率	自主的取組参考値（深緑）		
全 国	<ul style="list-style-type: none"> <li>7月30日～8月29日の1か月間は、北日本では気温は高く、東日本と西日本では平年並か高い見込み。降水量は、北日本と西日本では平年並か高く、東日本ではほぼ平年並の見込み。日照時間は、北・東日本太平洋側、西日本では、平年並か少ない見込み。（気象庁 7月28日発表）</li> <li>（8～10月の3か月間の見通し） 向こう3か月の気温は、全国的に高い見込み。北日本では降水量は平年並か多い見込み。日照時間は、北日本では、天気は数日の曇りで変わり、東・西日本では、平年と同様に晴れの日が多い見込み。 9月は、北・東日本と西日本日本海側では、天気は数日の曇りで変わり、西日本太平洋側では、平年と同様に晴れの日が多い見込み。 9月は、全国的に天気は数日の曇りで変わり、北日本太平洋側と西日本では、平年と同様に晴れの日が多い見込み。（気象庁 7月25日発表）</li> </ul>	7,430,000	▲ 80,000	▲ 1.1	7,350,000	7,442,000	104
北 海 道	<ul style="list-style-type: none"> <li>北海道地方の7月30日～8月29日の1か月間は、気温は高く、降水量は平年並か多い見込み。日照時間は、日本海側とオホーツク海側ではほぼ平年並、太平洋側東部では期間の前半は少ない状態が続く見込み。（札幌管区気象台 7月28日発表）</li> </ul>	541,500	▲ 5,830	▲ 1.1	535,669	559,600	104
青 森	<ul style="list-style-type: none"> <li>東北地方の7月23日～8月22日の1か月間の気温は高く、降水量はほぼ平年並の見込み。東日本太平洋側では、期間の前半を中心に湿った気流の影響を受けやすく、向こう1か月の日照時間は平年並か少ない見込み。（仙台管区気象台 7月28日発表）</li> </ul>	239,877	▲ 2,583	▲ 1.1	237,294	229,800	105
岩 手	同上（仙台管区気象台）	268,321	▲ 2,889	▲ 1.1	265,432	269,400	105
宮 城	同上（仙台管区気象台）	344,906	▲ 3,714	▲ 1.1	341,193	348,400	103
秋 田	同上（仙台管区気象台）	413,092	▲ 4,448	▲ 1.1	408,644	419,400	103
山 形	同上（仙台管区気象台）	340,830	▲ 3,670	▲ 1.1	337,160	354,300	103
福 島	同上（仙台管区気象台）	335,933	▲ 3,617	▲ 1.1	332,316	342,600	101
茨 城	<ul style="list-style-type: none"> <li>関東甲信地方の7月30日～8月29日の1か月間は、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並の見込み。期間のはじめは、湿った気流や気圧の谷の影響を受けやすく、向こう1か月の日照時間は平年並か少ない見込み。期間の前半は、少雨の状態が続く所がある見込み。（気象庁 7月28日発表）</li> <li>農業用水で、鬼怒川、清良瀬川、利根川、江戸川、神流川では10%取水制限中。（国土交通省 7月22日現在）</li> </ul>	333,776	▲ 3,594	▲ 1.1	330,182	345,400	96
栃 木	<ul style="list-style-type: none"> <li>同上（気象庁）</li> <li>同上（国土交通省 7月22日現在）</li> </ul>	295,508	▲ 3,182	▲ 1.1	292,326	287,300	98
埼 玉	<ul style="list-style-type: none"> <li>同上（気象庁）</li> <li>同上（国土交通省 7月22日現在）</li> </ul>	149,659	▲ 1,611	▲ 1.1	148,047	152,200	97
千 葉	<ul style="list-style-type: none"> <li>同上（気象庁）</li> <li>同上（国土交通省 7月22日現在）</li> </ul>	243,864	▲ 2,626	▲ 1.1	241,239	297,500	101
新 潟	<ul style="list-style-type: none"> <li>北陸地方の7月30日～8月29日の1か月間は、気温は高く、降水量はほぼ平年並、日照時間はほぼ平年並の見込み。（新潟地方気象台 7月28日発表）</li> </ul>	515,737	▲ 5,553	▲ 1.1	510,184	539,600	97
富 山	同上（新潟地方気象台）	183,672	▲ 1,978	▲ 1.1	181,695	191,200	103
石 川	同上（新潟地方気象台）	122,313	▲ 1,317	▲ 1.1	120,996	123,200	101

気象関連公表資料（気象台等公表資料の抜粋）		t	t	%	t	t	t
福井	同上（新潟地方気象台）						
長野	・ 関東甲信地方の7月30日～8月29日の1か月間は、気温は平年並か高く、降水量はほぼ平年並の見込み。期間のはじめは、湿った気流や気圧の谷の影響を受けやすく、向こう1か月の日照時間は平年並か少ない見込み。期間の前半は、少雨の状態が続く所がある見込み。 （気象庁 7月28日発表）	124,124	▲ 1,336	▲ 1.1	122,787	123,800	99
滋賀	・ 近畿地方の7月30日～8月29日の1か月間は、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（大阪管区気象台 7月28日発表）	191,933	▲ 2,067	▲ 1.1	189,867	194,500	97
兵庫	同上（大阪管区気象台）	158,741	▲ 1,709	▲ 1.1	157,032	158,500	100
岡山	・ 中国地方の7月30日～8月29日の1か月間の気温は、2週目は平年並か低く、3～4週目は平年並か高く、向こう1か月を平均した気温は平年並か高い見込み。降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 （広島地方気象台 7月28日発表）	178,518	▲ 1,922	▲ 1.1	176,596	178,900	99
広島	同上（広島地方気象台）	156,861	▲ 1,689	▲ 1.1	155,172	149,500	96
山口	・ 九州北部地方（山口県含む）の7月30日～8月29日の1か月間は、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 （福岡管区気象台 7月28日発表）	128,585	▲ 1,385	▲ 1.1	127,201	121,700	96
愛媛	・ 四国地方の7月30日～8月29日の1か月間は、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間はほぼ平年並か少ない見込み。（高松地方気象台 7月28日発表）	107,601	▲ 1,159	▲ 1.1	106,443	100,700	97
高知	同上（高松地方気象台）	73,133	▲ 787	▲ 1.1	72,345	71,200	98
福岡	・ 九州北部地方（山口県含む）の7月30日～8月29日の1か月間は、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。 （福岡管区気象台 7月28日発表）	49,537	▲ 533	▲ 1.1	49,003	52,800	96
熊本	同上（福岡管区気象台）	180,526	▲ 1,944	▲ 1.1	178,582	172,300	95
宮崎	・ 九州南部地方の7月30日～8月29日の1か月間は、気温は平年並か高く、降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ない見込み。（鹿児島地方気象台 7月28日発表）	187,293	▲ 2,017	▲ 1.1	185,277	171,500	97
鹿児島	同上（鹿児島地方気象台）	92,603	▲ 997	▲ 1.1	91,606	74,700	93
		109,887	▲ 1,183	▲ 1.1	108,704	95,700	95

参考資料:

平成28年産米の都道府県別の生産数量目標について(農林水産省)  
平成27年産水陸稲の収穫量(農林水産省)  
平成28年度病害虫発生予報第5号(農林水産省)

農作物の生育状況 7月15日現在(北海道 7月21日)、農作物生育状況 7月15日現在(北海道空知総合振興局 7月21日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道石狩振興局 7月21日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道後志総合振興局 7月21日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道胆振総合振興局 7月21日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道日高振興局 7月21日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道渡島総合振興局 7月21日)、農作物の生育状況 7月15日現在(北海道檜山振興局 7月21日)、  
農作物の生育状況 7月15日現在(北海道上川総合振興局 7月21日)、農作物生育状況調査の概要 7月15日現在(北海道留萌振興局 7月21日)  
農作物の生育と農作業の進捗状況 7月15日現在(北海道オホーツク総合振興局 7月21日)、  
病害虫発生予察情報第10号8月予報(北海道病害虫防除所、道総研中央農業試験場予察診断グループ 7月26日)、  
H28水稲作況(6月30日現在)(青森県産業技術センター農林総合研究所 7月1日)、稲作生産情報第5号(青森県 7月5日)、  
平成28年度病害虫発生予報第5号(8月予報)(青森県病害虫防除所 7月28日)、  
平成28年度水稲生育定期調査結果No.6(7月25日現在)(岩手県農業研究センター 7月27日)、  
平成28年度農作物病害虫防除速報No.10(岩手県病害虫防除所 7月19日)、平成28年度農作物病害虫発生予察情報発生予報第5号(8月予報)(岩手県病害虫防除所 7月27日)、  
平成28年度水稲の生育状況について(7月20日現在)(宮城県農林水産部 7月21日)、平成28年度発生予察情報発生予報第7号-水稲-(宮城県病害虫防除所 7月21日)、  
平成28年度産美里地区の稲作情報第5号(宮城県美里農業改良普及センター 7月22日)、栗原の稲作通信平成28年第6号(宮城県栗原農業改良普及センター 7月21日)、  
仙台直播情報平成28年度版第1号(宮城県仙台農業改良普及センター 7月1日)、仙台稲作情報第3号(宮城県仙台農業改良普及センター 7月14日)、  
平成28年度産大崎稲作情報第4-2号(宮城県大崎農業改良普及センター 7月21日)、平成28年度産仙南稲作情報(第6号)(宮城県大河原農業改良普及センター 7月20日)、  
稲作情報Vol.4(本吉農業改良普及センター 7月4日)、登米地域の稲作通信第6号(宮城県登米農業改良普及センター 7月13日付)、  
平成28年度稲作情報第2号(宮城県亶理農業改良普及センター 6月13日)、稲作情報Vol.4(本吉農業改良普及センター 7月4日)、  
生育状況の情報(秋田県ホームページ「こまちチャンネル」http://www.e-komachi.jp/ 7月22日)、  
平成28年度農作物病害虫発生予察情報発生予報第3号(7月予報)(秋田県病害虫防除所 7月1日)、  
米づくり技術情報NO.7(オールやまがた米づくり日本一運動本部 県産米ブランド推進課 7月20日)、  
稲作だより第9号(最上総合支庁農業技術普及課 7月22日)、おいしい米づくり情報第11号(庄内総合支庁農業技術普及課 7月25日)、  
稲作だより第6号徳肥特集号(村山総合支庁西村山農業技術普及課 7月4日)、  
酒田・飽海日本一米づくり情報第8号・酒田飽海つや姫情報第6号(酒田農業技術普及課 7月12日)、  
稲作だより第6号(村山総合支庁産業経済部北村山農業技術普及課 7月5日)、つや姫だより第4号(村山総合支庁産業経済部北村山農業技術普及課 7月5日)、  
おいしい米づくり情報第7号(村山総合支庁農業技術普及課 7月5日)、つや姫通信第4号(村山総合支庁農業技術普及課 7月12日)、  
平成28年第1号おきたま つや姫だより(置賜総合支庁農業技術普及課 7月5日)、おきたま米づくり情報No.6(置賜総合支庁農業技術普及課 7月5日)、  
水稲直播情報第3号(庄内総合支庁農業技術普及課 6月14日)、  
平成28年度農作物有害動物発生予察情報発生予報第5号(8月)(山形県病害虫防除所 7月27日)、  
主要な農作物の生育情報平成28年度第4号(福島県農林水産部 7月8日)、平成28年度病害虫発生予察情報発生予報第4号(7月)(福島県病害虫防除所 7月22日)、  
平成28年度病害虫発生予察情報注意報第4号(福島県病害虫防除所 7月22日)、  
農研速報(水稲の生育状況)(7月20日現在、水戸市)(茨城県農業総合センター 7月22日)、  
農研速報(水稲の生育状況)(7月19日現在、雫ヶ崎市)(茨城県農業総合センター 7月22日)、  
病害虫発生予報7月号(茨城県病害虫防除所 7月4日)、平成28年度病害虫発生予報第2号(栃木県農業環境指導センター 5月20日)、  
平成28年度水稲生育診断予報事業速報No.5(栃木県農政部 7月25日)、平成28年度病害虫発生予報第4号(栃木県農業環境指導センター 7月22日)、  
河内管内水稲技術情報7月号(栃木県河内農業振興事務所)、水稲管理情報Vo.2(栃木県上都賀農業振興事務所)  
平成28年度水稲の生育概況vol.2(埼玉県農業技術研究センター 7月7日)、  
平成28年度病害虫発生予報第3号(7月予報)(埼玉県病害虫防除所 6月29日)、水稲の生育状況と当面の対策第4報(千葉県農林水産部 6月28日)、  
平成28年度病害虫発生情報第1号(千葉県農林総合研究センター 6月9日)、平成28年度病害虫発生予報第4号(千葉県病害虫防除所 7月7日)、  
平成28年度病害虫発生予察注意報第1号(千葉県農林総合研究センター 7月1日)、  
水稲の生育状況と今後の管理対策(第7号)(新潟県農林水産部 7月26日)、水稲の生育状況と今後の管理対策(第6号)(新潟県農林水産部 7月21日)、  
岩船米生育速報(7月25日現在)(村上農業普及指導センター)、稲作生育速報No.5(佐渡農業普及指導センター 7月11日)  
新発田地域水稲生育速報No.7(新発田農業普及指導センター 7月25日)、水稲生育速報No.6(新潟農業普及指導センター 7月21日)  
水稲生育速報(長岡農業普及指導センター 6月30日)、稲作情報No.6(南魚沼農業普及指導センター 7月25日)、  
稲作管理情報6(柏崎農業普及指導センター 7月21日)、平成28年上越地域米水稲生育速報(7月20日)(上越農業普及指導センター 7月20日)、  
平成28年度糸魚川売れる米づくり水稲生育情報NO. 6(糸魚川地域農林振興部 7月21日)、平成28年度稲作生育速報No.3(佐渡農業普及指導センター 6月20日)、  
売れる米づくり技術対策資料 No.3(新潟農業普及指導センター 6月23日)、新潟稲作速報No.7(新潟農業普及指導センター 7月25日)、  
水稲生育速報(巻農業普及指導センター 7月11日)、FAX稲作速報No.11(三条農業普及指導センター 7月25日)、  
平成28年度上越地域米水稲生育速報(7月25日)(上越農業普及指導センター)、緊急稲作情報(JA北魚沼・魚沼農業普及指導センター 7月27日付)、  
稲作生育速報(十日町地域)(十日町農業普及指導センター)・十日町地域農業振興協議会魚沼米振興部会 7月20日)  
平成28年度病害虫発生予察情報・注意報第1号(新潟県病害虫防除所 6月29日)、  
平成28年度新潟県病害虫発生予察情報・予報第5号(7月後半の発生予想)(新潟県病害虫防除所 7月15日)、  
TACS情報第8号(富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月19日)、直播情報(第6号)(富山県農業技術課 広域普及指導センター 7月19日)、  
病害虫発生注意報第1号(富山県農林水産総合技術センター 6月21日)、病害虫発生予報第4号(富山県農林水産総合技術センター 7月1日)、  
平成28年度水稲の生育状況と今後の対策(水稲生育診断技術確立調査-6号)(石川県農林総合研究センター 7月19日)、  
病害虫発生予報第4号・注意報第1号(石川県農林総合研究センター 7月14日)、  
稲作情報No.11(福井県 水田農業レベルアップ委員会技術普及部会 7月15日)、平成28年度農作物病害虫発生予察予報第5号(福井県農業試験場 6月30日)、  
平成28年度農作物病害虫発生予察注意報第1号(福井県農業試験場 6月28日)、  
平成28年度農作物技術普及情報第10号(松本農業改良普及センター)、  
稲作フロンティアアドバイス(No1)(JA長門大津、長門農林事務所農業部 6月11日)、  
病害虫発生予報注意報第3号(長野県病害虫防除所 7月19日)、  
平成28年度水稲生育診断情報No.4(滋賀県農業技術振興センター 7月26日)、平成28年度病害虫発生予報第7号(滋賀県病害虫防除所 7月20日)、  
病害虫発生予察注意報第4号(滋賀県病害虫防除所 7月28日)、病害虫発生予察注意報第3号(滋賀県病害虫防除所 7月14日)、  
平成28年度兵庫県農業気象技術情報第3号(7月情報)について(兵庫県農政環境部 7月4日)、平成28年度病害虫発生予察予報第3号(兵庫県病害虫防除所 7月21日)、  
広島県病害虫発生予察情報予報第5号(水稲)(広島県西部農業技術指導センター 7月28日)、  
平成28年度病害虫発生予報第4号(岡山県病害虫防除所 6月30日)、稲作フロンティアアドバイス(No5)(JA長門大津、長門農林事務所農業部 7月21日)、  
平成28年度農作物病害虫発生予察技術資料第2号(山口県病害虫防除所 6月20日)、農作物病害虫発生予報7月(山口県病害虫防除所 7月1日)、  
農作物病害虫発生予察注意報第2号(山口県 7月15日)、  
気象情報に基づく技術対策・作物(愛媛県農林水産研究所 7月1日)、病害虫発生予報(7月)(愛媛県病害虫防除所 6月30日)、  
平成28年度における水稲の生育状況(6月17日時点)(高知県農業技術センター 6月22日)、  
平成28年度病害虫発生予察予報第4号(7月)(高知県病害虫防除所 7月5日)、平成28年度病害虫発生予察注意報第1号(高知県病害虫防除所 6月30日)、  
平成28年度病害虫発生予報第4号(7月)(福岡県病害虫防除所 7月1日)、福岡県米麦大豆生育情報(福岡県農林業総合試験場 7月27日)、  
福岡県米麦大豆生育情報(福岡県農林業総合試験場 7月19日)、平成28年度病害虫発生予報第4号(7月予報)(熊本県病害虫防除所 6月30日)、  
平成28年度産宮崎産早期米産地情報(平成28年6月15日現在)・平成28年度産早期米生育状況(宮崎経済連ホームページ)http://www.miyazaki-cha.jp/kome/index.html 7月7日)、  
平成28年度病害虫発生予報第3号(宮崎県病害虫防除所・肥料検査センター 6月24日)、平成28年度病害虫発生予報第5号(8月)(鹿児島県病害虫防除所 7月27日)、

北海道地方こう1か月の天候の見通し(札幌管区気象台)、東北地方こう1か月の天候の見通し(仙台管区気象台)、関東甲信地方こう1か月の天候の見通し(気象庁)、  
北陸地方こう1か月の天候の見通し(新潟地方気象台)、近畿地方こう1か月の天候の見通し(大阪管区気象台)、中国地方こう1か月の天候の見通し(広島地方気象台)、  
四国地方こう1か月の天候の見通し(高松地方気象台)、九州北部地方こう1か月の天候の見通し(福岡管区気象台)、九州南部・奄美地方こう1か月の天候の見通し(鹿児島地方気象台)  
低温に関する東北地方気象情報第1号(気象庁 7月20日)、エルニーニョ監視速報(No. 285)(気象庁地球環境・海洋部 6月10日)  
平成28年度湛水状況について(6月27日0時現在)(国土交通省 平成28年6月27日)